

焼鮒伝説をモチーフにしたオブジェが電鉄跡地遊歩道に

”山田校区アートの道”



オブジェイイメージ図

展示期間 平成30年7月14日～10月8日

展示区間 電鉄跡地遊歩道及びふるさと村

(山田2604地先(NIC黒崎)～善久823地先迄の約1.0km)

主催 山田校区ふれあい協議会

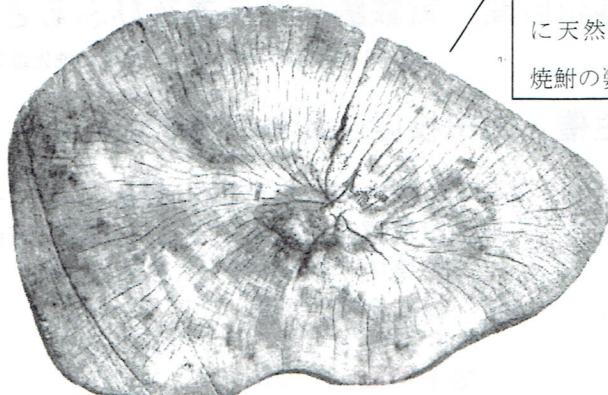
制作・指導 新潟大学 永吉秀司 先生 橋本 学 先生
協 力 田代家、新潟ふるさと村、雪稜舎美術館、
黒崎中学校美術部、山田小学校
協 賛 株式会社 廣瀬



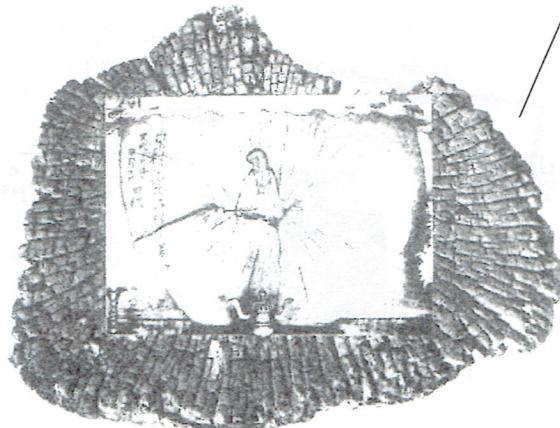
新潟県新潟市江南区2017年 73頁A4 / 新潟県新潟市西区2017年 96頁A4

越後七不思議 “焼鮒伝説”

田代家「焼鮒旧跡略縁起」より



聖人袈裟掛けの榎
に天然に現れた
焼鮒の姿です。



昭和二三年九月の
火災に依り焼けた
木板の上に前に写
した写真を貼って
撮影したものです。

越後の国に流罪されていた親鸞聖人が、建暦元年(1211年)11月17日に勅免され、当地を去る際に酒の肴にと焼いた鮒を差し上げたところ、親鸞聖人は、まとっていた袈裟を傍らの榎に内掛け、称名もろともこの鮒を池に放したところ、たちまち生き返り、それ以来、この榎を袈裟掛けの榎、焼鮒の靈地と伝えられている。

寛政8年(1796年)の弥生の風に袈裟をかけた榎の枝が折れたため、その枝を挽くと二またに分かれた切口に聖人の姿と焼鮒の形が現れ、合子ヶ作(現 山田)の村人は、天然奇瑞の法物として拝礼した。

ところが、昭和23年(1948年)に疎開していたものが不始末で火を出し、館が全焼した。それ以来、田代家には、村人が必死で取り出し無事だった「焼鮒の御形」と「聖人の御姿」の写真が祀られている。

アートの道の謎解きに挑戦

新潟ふるさと村からアート道の青空ギャラリーまで、各箇所に円錐形オブジェが置かれています。

各箇所に置かれている円錐形オブジェの数を順番に並べてみてください。

焼鮒の伝説に縁のある数字が浮かびます。

謎解きに挑戦してみてください。



※ 先着50名の正解の方にプレゼントがあります!!